

9/21(水) トークセッション開催！ 音楽の響きあう時、奏であう場所 ～私たちの音楽とは何か、音楽教育の中で伝えていくこと～



国際交流基金(ジャパンファウンデーション)アジアセンターは、マレーシア・マラ工科大学音楽学部学部長のラモナ・モハメド・タヒール氏、世界を舞台に活躍する箏曲家の野坂恵子氏、沢井一恵氏、モデレーターに邦楽ジャーナルの織田麻有佐氏をお迎えし、音楽教育の現状と未来をテーマにしたトークセッションを9月21日(水)に開催いたします。

明治期以降、西洋音楽を基盤として発展してきた日本の音楽教育は、日本の伝統の一つである邦楽との距離を生み出してきてしまいました。一方でマレーシアは、長い歴史の変遷の中で諸外国との重要な貿易地点となり、中国やポルトガルをはじめとする西洋諸国など様々な国の影響を受けながら、自国の伝統を融合させ多様な文化を形成してきました。両国の歴史的背景について振り返りつつ、自国の伝統との関係性を見つめなおすと共に、音楽教育の現状と問題点、これからの未来への展望について語り合います。さらに当日は野坂恵子氏と沢井一恵氏による演奏も予定しております。

つきましては、貴媒体でのご紹介についてご検討下さいますようお願い申し上げます。

- | | |
|-----------------|---|
| 【タイトル】 | 音楽の響きあう時、奏であう場所
～私たちの音楽とは何か、音楽教育の中で伝えていくこと～ |
| 【日程】 | 2016年9月21日(水)19時～21時(18時30分開場) |
| 【会場】 | 国際交流基金 JFIC ホール[さくら] (新宿区四谷4-4-1 2F) |
| 【ゲスト】 | ラモナ・モハメド・タヒール (音楽教育専門家/マラ工科大学音楽学部学部長)
野坂 恵子 (箏曲家/桐朋学園芸術短期大学特別招聘教授)
沢井 一恵 (箏曲家) *順不同、敬称略 |
| 【モデレーター】 | 織田 麻有佐 (邦楽ジャーナル) |
| 【言語】 | 英語/日本語(同時通訳あり) |
| 【参加費】 | 無料(事前申込制・定員100名 先着順) |
| 【申込先】 | 国際交流基金アジアセンター 青柳
TEL :03-5369-6140 E-mail: Rie_Aoyagi@jpf.go.jp |
| 【ウェブページ】 | http://jfac.jp/culture/events/music-education-160921/ |
| 【主催】 | 国際交流基金アジアセンター |
| 【協力】 | 邦楽ジャーナル |

ゲストプロフィール

ラモナ・モハメド・タヒール（音楽教育専門家／マラ工科大学音楽学部学部長）

数少ないマレーシアにおける音楽教育を牽引する人物。

マレーシアで教育省傘下の大学組織の中で、最も初めに設立されたマラ工科大学の音楽学部長を務める傍ら、学生が活動する場の開拓や、教育プログラムの立案に力を注いでいる。現在、マレーシア政府教育省にて音楽教育のアドバイザーを務めており、マレーシアで設立が検討されている芸術専門学校（日本での高校レベル）の設立プログラムに関与するほか、マレーシアヤマハ音楽グレード試験の審査員を務めている。

野坂 恵子（箏曲家／桐朋学園芸術短期大学特別招聘教授）

初代野坂操壽から手ほどきを受け、9才で加藤柔子氏に古典箏曲・地歌三絃を師事。東京藝術大学邦楽科専攻課程修了。1969年二十絃箏を開発。1991年二十五絃箏を開発・発表。2000年ミュージックペンクラブ最優秀コンサート・パフォーマンズ賞（1999年伊福部昭作曲「琵琶行」初演に対し）。2002年芸術選奨文部科学大臣賞。2003年紫綬褒章、二代野坂操壽襲名。2006年中島健蔵音楽賞。エクソンモービル音楽賞。2011年日本藝術院賞。2015年文化功労者。古典の継承と同時に、二十五絃箏の為の委嘱初演を続けている。「野坂操壽×沢井一恵 変絃自在」の公演を全国各地で展開中。現在、桐朋学園芸術短期大学特別招聘教授、(公社)日本三曲協会常任理事。生田流箏曲松の実會主宰。

沢井 一恵（箏曲家）

8才より箏曲を宮城道雄に師事。東京芸術大学音楽学部卒業。1979年沢井忠夫と共に沢井箏曲院を設立、現代邦楽の第一線で活躍する一方、求められればどこへでも行く全国縦断「箏遊行」や、作曲家の一柳慧、パーカッションの吉原すみれと結成した「トライアングル・ミュージック・ツアー」で日本各地 70 回にも及ぶ現代音楽コンサートを敢行。高橋鮎生、太田裕美、ピーター・ハミルらの参加アルバム制作、ジョン・ゾーン、高橋悠治プロデュースによるコンサートなど多彩な活動を展開。ニューヨークの BANG ON A CAN フェスティバル、ウィーン、メルズ・ジャズ・フェスティバル、パリ市立劇場などアメリカ、ヨーロッパ各地のフェスティバルより招聘を受け、KAZUE SAWAI KOTO ENSEMBLE で世界中のいろいろな音楽シーンに登場、ワールドツアーを展開している。邦楽とは無縁だったたくさんの人々に箏の魅力を伝えている。

織田 麻有佐（邦楽ジャーナル）

兵庫県出身。幼少の頃より箏・三味線を嗜む。NHK 邦楽技能者育成会第 28 期卒業。1990年(有)邦楽ジャーナルに入社、それまでの経験を活かして記者・編集活動を開始。1993年頃から津軽三味線の取材も始め、同社発行の津軽三味線と太鼓の専門情報誌「バチ2 BACHI-BACHI」編集長を2004年から3年間務める。また、日本音楽を紹介するイベントやコンサート、ワークショップなどの企画・制作も手がける。共著に「まるごと三味線」(青弓社)、「邦楽ディスク・ガイド」(音楽之友社)など。

国際交流基金アジアセンターについて

独立行政法人国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、全世界を対象に総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。アジアセンターは2014年4月に設置され、ASEAN 諸国を中心としたアジアの人々との双方向の交流事業を実施・支援しています。日本語教育、芸術・文化、スポーツ、市民交流、知的交流等さまざまな分野での交流や協働を通して、アジアにともに生きる隣人としての共感や共生の意識を育むことを目指しています。http://jfac.jp

●トークセッションに関するお問い合わせ： 国際交流基金 アジアセンター文化事業第1チーム（担当：青柳、渡邊）
Tel: 03-5369-6140 / E-mail: Rie_Aoyagi@jpf.go.jp, Kinu_Watanabe@jpf.go.jp